

“つながり”を継続し、生み出す高齢者施策



【生活支援コーディネーターとして取り組む“つながり”】

	課題・資源	課題・資源から考えられる必要な“つながり”
第一層	課題：独居高齢者が増え、地域とつながりの減少 ：認知症高齢者への地域の理解不足 資源：地域団体、企業・店舗等 地域ケア会議ガイドライン・地域支え合い会 議・協議体	<ul style="list-style-type: none"> ・すでにある資源の把握と周知で住民とつなげる ・支え合い会議での情報・資源を新たな資源づくり ・地域住民の意欲を担い手として生み出すためのつながり ・地域住民と関係団体の学べる機会づくり
第二層（ふたば）	課題：マンションや集合住宅が多いことで、表面化する 高齢化や住民同士のつながりの希薄化 課題の多様化 資源：企業・店舗、居場所（サロン等）	<ul style="list-style-type: none"> ・困りごとを相談し助け合える住民同士のつながり ・居場所（サロン）から生まれる参加者のつながり ・地域住民の課題を解決するための企業とのつながり ・地域の困りごとを一緒に把握し共有するための地域住民とのつながり
第二層（しなの）	課題：地域が広く買い物・移動に困る 資源：地域団体・企業・店舗等	<ul style="list-style-type: none"> ・困りごとを相談し助け合える住民同士のつながり ・住民の困りごとを把握するための地域住民・団体とのつながり ・住民の困りごとを解決するための様々な資源とのつながり ・住民の移動手段を確保するためのつながり
第二層（中央東）	課題：独居高齢者の孤立・孤独 認知症高齢者の増加 資源：地域団体・商店街・企業・店舗等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との交流、関係性作り ・地縁団体・関係機関との連携 ・地域での見守り体制づくり

【活動進捗】

		活動計画（第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画）			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第一層 【目標】 孤独にさせない地域でのつながりの構築	計画	・生活支援 CN 配置の目的（生活支援体制整備事業）の周知活動 ・地域資源の活動把握と継続支援 ・住民をつなぐ地域資源のマップづくり	・住民をつなぐ地域資源のマップの活用 ・孤独にさせない、楽しむための移動支援ネットワークづくり	・つながりの継続を支える人づくり ・第2層圏域でのスムーズな事業化に向けての働きかけ	・事業評価から見える継続のための課題把握 ・令和2年度～4年度に実施してきた取り組みを地域住民や地縁団体、企業等を対象に報告する場を設ける
	進捗状況及び課題	・高齢者の生きがいや介護予防につながる社会参加、役割を持てる活動のための居場所として「よりどころ」の冊子の作成と配布や資源マップ（ささえあいマップ）のための要綱・ちらしを作成することで高齢者が地域で安心して暮らせるつながりの準備を行った。 → 今後、資源マップへの掲載依頼と活動の聞き取りからマップを作成していく。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止から地域活動の自粛となり、高齢者のフレイルへの不安や活動参加の希望に対して、活動再開に向けた働きかけを行った。 → 地域の居場所の「よりどころ」42か所と19地区社協に <u>新しい生活様式を取り入れた地域活動の再開</u> に向けた「地域活動再開のためのポイント」の配布と活動再開の働きかけにより徐々に活動再開 ・地域住民の認知症高齢者への理解不足と相談先の周知に対する働きかけ → 令和2年7月から毎月1地域包括支援センターが <u>地域住民への情報提供と相談先の周知のための「せとまちラジオ」</u> への出演計画済。			

		活動計画（第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画）			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
ふたば） 【目標】 企業・店舗の多さを活かし、住民同士がつながりを持ち生活できる地域づくり	計画	・企業や店舗を対象に聞き取りを実施 ・業種別にリストアップ。 ・サロンでの住民への聞き取り ・地域の現況調査（人口・世帯・年代等） ・他市町の調査	・地域住民を対象としたニーズ調査 ・地域団体との情報共有 ・企業と地域のマッチング ・事業の企画、検討	・モデル事業の検討、実施	・モデル事業の評価 ・評価を基にした事業の改善や新規事業を検討、実施
	進捗状況及び課題	・民生委員や地区社協役員から聞き取りを行った。 →水南連区の地域の課題として、同時期に入居が始まったマンションが多くあり、築年数が30年を超え、 <u>住民のほとんどが高齢者であるマンションが複数存在していることがわかった。</u> ・サロンでの住民への聞き取りについて → <u>こうはん連区では地域サロンが多くあるが、新型コロナウイルス感染症の影響から3月～7月にかけて実施できない状況にあった。</u> 地域住民より、サロン再開を求める声が多くあったことからサロン再開に向けての動きが各町内で始まった。その後の実施状況と今後の方向性について把握を行ったところ、今年はサロンを実施しない地域や新しい生活様式を取り入れる等、工夫をされながら実施される地域があることが分かった。 ・地域包括支援センターとの情報共有について →水南地区社協の役員会にて、地域課題について話し合いを行い、 <u>高齢者の買い物やサロン以外の居場所の必要性等の課題が挙げられた。</u> 地区社協での課題を基に地域包括支援センターに聞き取りを行った。家族から支援を受けているケースが多く、買い物に行く際は、自分で店へ行き自分で選びたいという方が多いという意見や行きはいいが帰りが大変という意見があった。サロン以外の居場所という点では、水南連区にある『レノマ』『K』という喫茶店に高齢者が多く集まるとのことだった。			

		活動計画（第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画）			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第二層（しなの） 【目標】 買い物・移動への困りごとを解決し、住民が社会参加できる地域づくり	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や店舗など様々な社会資源への聞き取り ・地域活動の把握 ・他市町の調査 ・地域住民の意識調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を対象としたニーズ調査 ・協議体を活用した地域団体への情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体や企業等、様々な社会資源が連携した事業の検討、実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な団体が連携した事業の実施、評価
	進捗状況及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ・しなの地域包括支援センターの開催する地域ケア会議開催のため、女性会や地区社協等、関係団体への聞き取りや地域ケア会議に参加し、地域の実情を把握した。 → <u>買い物については、お店が八百屋1件しかない。</u> 買い物・通院のためにバスを利用したくても<u>公共交通機関が充足していないため、買い物や移動に困る住民が多くいる。</u> 買い物は、豆腐屋の移動販売やご近所同士の乗り合わせ・生協の宅配・子どもの送迎などで日常の買い物を解決している状況が少なからずあった。 <u>「車が運転できなくなったらどうしようか。」</u>など、5年後の生活に不安を抱えている住民が多かった。 ・市役所のまちづくり協働課・自治会事務局と尾張東流通センター(株)の買い物支援事業について情報共有を図った。 → 地域ケア会議で話し合った「買い物・移動に困るという課題」と、尾張東流通センターが考える買い物支援事業について自治会等と話し合い、試験的にでも買い物への取り組みができるよう進めていく。 ・地域活動を再開するための留意事項をまとめた資料を作成し、地域活動再開にあたり、運営者を訪問した。 			

		活動計画（第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画）			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第二層（中央東） 【目標】 独居高齢者の孤立を防ぐために支えあう地域づくり	計画	・独居高齢者の実情、意見、ニーズの把握 ・地域資源の状況把握 ・居場所への訪問、調査	・居場所の周知、情報共有 ・地域住民、地縁団体、関係機関との連携の強化	・地域で活躍できる担い手の発掘 ・高齢者が活躍できる場づくり	・独居高齢者の孤立、早期発見、対応につなげる体制づくり
	進捗状況及び課題	<p>・居場所（よりどころ）の活動状況を電話で把握した。</p> <p>→ 6月までは公民館も使用できないため活動を中止し、道泉地区においてはまだ開催できない場所もあったが、7月より徐々に安全対策をとりながら行うところが多かった。今までやってきた当たり前のことができないことや健康状態の不安といった声が聞かれた。居場所の再開に向けて、新しい生活様式を取り入れた事業を行うことに苦慮しているところが多いことから、他の活動情報を提供した。</p> <p>・居場所（よりどころ）利用の独居高齢者から居場所や買い物についての聞き取りを行った。</p> <p>→ 転入された住民からは瀬戸は親切な方が多い町といわれる。居場所（よりどころ）があることで会話することができる。歩いていけるのがよい。歩くことと会話は生きていく上で必要なことであるなどの声が聞かれ、利用されている方それぞれが、居場所の参加により健康管理していた。運営側は、参加者から教えてもらうことも多いようで、参加者を気遣い通りかかる人にも声掛けするなど居場所を開催しながら、近隣の高齢者などを気にかけて見守りの関係性を築いている。</p> <p>買い物などは家族に頼まれる方、ご自身でされている方が多く、自身での移動の場合は、行くときはバスを利用し、帰りはタクシーを利用することが多いとのことであった。</p> <p>・地域包括支援センター中央東に訪問し、情報共有を行った。</p> <p>→ <u>包括中央東圏域には独居高齢者が多く、発見時には重症化しているケースが多いことから地域でのつながりの必要性</u>について情報共有を図った。</p> <p>・古瀬戸地区で開催された地域ケア会議に参加し、地域の実情を把握した。</p> <p>→ <u>独居高齢者の孤立、孤独、孤食、地域との交流がないことをテーマに話し合われた</u>。近隣の方との交流はないが、ケア会議で取り上げたことで、近隣の方に気にかけてもらえることのきっかけになった。</p> <p>・地域支え合い会議の開催に向けて準備していく。</p> <p>→ <u>地域と関りのない独居高齢者に対しどのような取り組みができるのか、地域住民、地域団体、福祉関係者等の方々</u>と検討していく。<u>社会的孤立のリスクの高い高齢者等に係る情報の把握・共有</u>に努める。</p>			